

「板橋区子ども読書活動推進計画 2030」素案概要

教育委員会中央図書館

1 計画策定にあたって P2～5

(1) 計画策定の背景

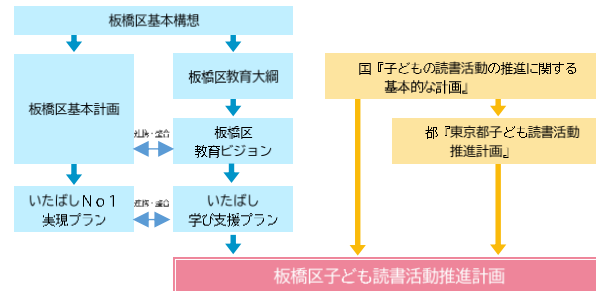
「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき策定している「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」が令和7(2025)年に終了します。

国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第五次)」と「第四次東京都子供読書活動推進計画」を踏まえた次期「板橋区子ども読書活動推進計画 2030」を策定します。

(2) 国・都の計画

国「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第五次)、都「第四次東京都子供読書活動推進計画」を踏まえた計画として、「板橋区子ども読書活動推進計画 2030」を策定します。

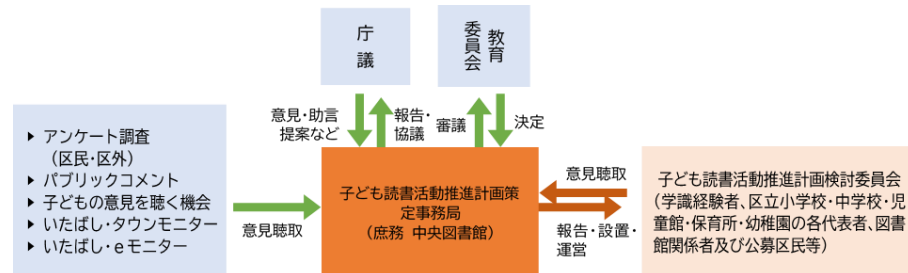
(3) 計画の位置づけ



(4) 計画の期間

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)	令和16年度 (2034年度)	令和17年度 (2035年度)
板橋区教育大綱									
板橋区教育ビジョン2035（仮）									
いたばし学び支援プラン2028(仮)			いたばし学び支援プラン2031(仮)			いたばし学び支援プラン2035(仮)			
板橋区子ども読書活動推進計画2030									

(5) 計画の策定体制



2 板橋区の現状と課題 P8～15

(1) 第三期計画の取組状況と評価

◆基本方針

- ①子どもの読書のための環境の整備・充実
- ②子どもの年齢・発達の段階に応じた取組
- ③家庭・地域・学校との協力、連携による取組

64の事業を実施

取組の対象(関連する基本方針)	事業数	評価		第四期計画への反映				
		順調	低調	拡充	継続	改善	終了	
乳幼児を対象とした取組①②	13	13	0	4	8	0	1	
小学生を対象とした取組①②	14	14	0	3	11	0	0	
中学生を対象とした取組①②	12	12	0	1	10	1	0	
中高生世代を対象とした取組①②	6	6	0	0	6	0	0	
特別な支援を必要とする子どもたちへの取組①②	7	6	1	1	5	0	1	
家庭・地域・学校との協力、連携による取組③	12	12	0	1	10	1	0	

【評価】複数部署で実施している取組は総合的に判断している

順調:計画どおりに実施したもの

低調:計画どおりに実施できなかったもの

【第四期計画への反映】

拡充:引き続き計画に位置づけて今後の取組を拡大・充実していくもの

継続:引き続き計画に位置づけて実施していくもの

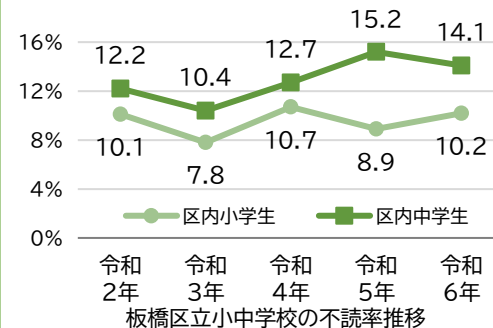
改善:引き続き計画に位置づけるが、実施方法について改善が必要なもの

終了:目標を達成したもの、他事業と整理・統合したもの、成果の見込みがないため取組内容を終了するもの、見直しにより不要とするもの

第三期計画の64事業は対象年齢別に設定しているため、一部事業が重複しています。

第四期計画では基本方針に沿った取組分類とし、事業重複がおこらないように年度評価を行います。

(2) 板橋区立中央図書館にて毎年実施している「読書についてのアンケート調査」より



小学生は7.8%から10.7%、
中学生は10.4%から15.2%で推移

【調査対象】

小学校:区立小学校6～13校

※令和3年度より第三期計画に移行しているため、対象学校数が異なる

中学校:区立中学校全校各学年から1学級抽出

※不読率 1か月に本を読まなかった児童・生徒の割合

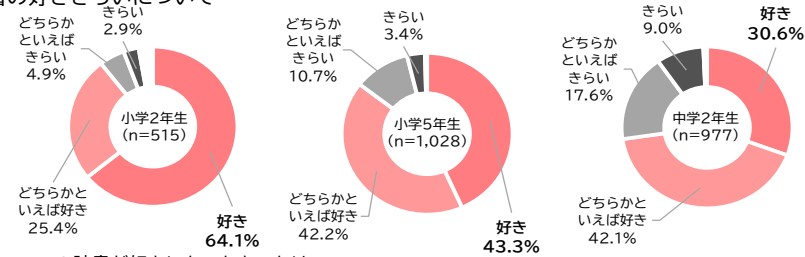
(3) 「板橋区子ども読書活動推進計画 2030」の策定に向けた読書に関するアンケート調査を実施

調査対象: 区立小中学校 児童・生徒(小2、小5、中2(8年生))及び保護者

対象児童・生徒数 10,957人

【調査結果の一部を抜粋 ※表中「n」は、その設問における回答数です】

◆読書の好きさについて



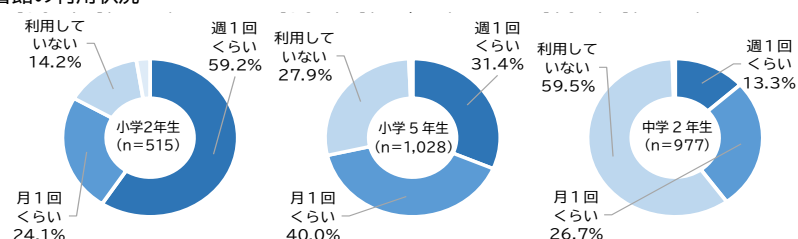
●読書が好きになったきっかけ

- ①本を読むと面白い
- ②好きな本と出会った
- ③本を読むと知識がつく

●読書がきらいな理由

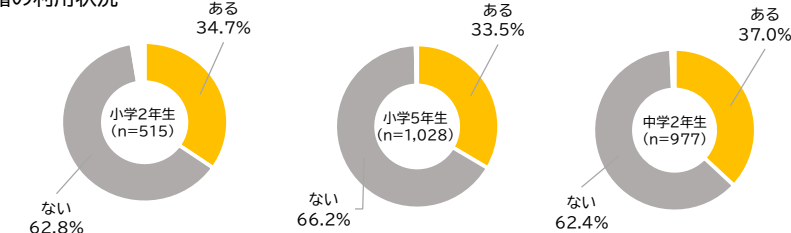
- ①面白くない
- ②好きな本がない
- ③本を読んで勉強したくない

◆学校図書館の利用状況



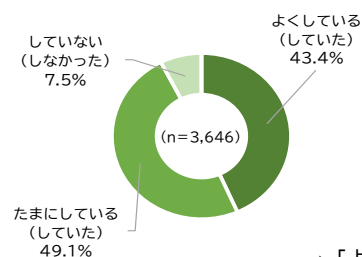
→学年が高くなるほど利用率が少なくなる傾向

◆電子書籍の利用状況



→学年による大きな差はない

◆子どもへの読み聞かせの状況(保護者)



→「よくしている(していた)」「たまにしている(していた)」が90%以上



(4) 子どもたちの意見

本計画の策定にあたり、小学生から高校生までを対象にアンケート調査やヒアリングを行い、日常の読書活動に関する考えや希望、また、図書館や学校と図書室の利用状況等について多様な意見を収集しました。得られた意見は、策定の基本的視点や施策の基本的方針の検討に活用するなど、子どもの視点を反映した計画の策定に努めました。

◆実施概要

- ①「板橋区子ども読書活動推進計画 2030」の策定に向けた読書に関するアンケート調査による自由記述
対象者: 区立全小中学校児童・生徒 (小学2年生・5年生、中学2年生(8年生))
- ② 子ども司書への聞き取り
対象者: 中央図書館子ども司書 15名(小学4年生～6年生)
- ③ 中央図書館へ職場体験に来た中学生へのアンケート
対象者: 中学生 15名(中学2年生(8年生))
- ④ 中央図書館利用者懇談会に参加した子どもから意見徴収
対象者: 中学生6名 高校生4名
- ⑤ 中央図書館へ図書館見学に来た小学生から意見徴収
対象者: 小学生 12名

(5) 国や都の動向・板橋区の現状を踏まえた今後の取り組むべき主な課題

- 子どもが読書をする理由として「楽しむため」の回答が最も多く、自主的に読書をしていることが分かります。また、読書がきらいな子どもは「親や先生に進められたから」の回答割合が多く、子どもが楽しめる取組の充実が必要です。
- 読書が好きな子どもは、読書による自身の成長を実感しており、価値ある資料の提供が子どもの成長にとって必要です。
- 読書が好きな子どもは、家族や友達にすすめられた本を読んでいることが多く、本を介した親しい人とのコミュニケーションが効果的です。
- 学校の長期休暇期間に読書をする割合が多く、学校の課題等に本を活用していることが考えられます。学校での読書へのアプローチが必要であるとともに、長期休暇以外の期間も同様に読書をする取組が必要です。
- 読書が好きな保護者ほど、子どもの頃の読み聞かせの経験が多く、本の好き嫌いは、子どもの頃の本の読み聞かせの経験に影響していることが分かります。子どもの読書経験を豊かにするために、乳幼児期の早い段階から本と触れ合う環境が必要です。
- 保護者は、子どもが欲しい本や喜びそうな本を子どもに与え、子どもの読書に対して、知識が増えることや想像力が養われることを期待しています。子どものニーズを把握し、子どもと良書をつなげる取組が必要です。
- 中学生は、テレビやインターネット、YouTube、Instagram等を活用して読書する本を選んでいる子どもが多く、メディアを利用した本の紹介が有効であることがアンケートの結果から分かりました。情報の発信方法の工夫が求められています。
- 学年が高くなるほど学校図書館の利用頻度は低くなっています。学年が高いほど学校図書館の利用促進が必要です。



平和公園のイベントと連携したおはなし会



子ども司書

3 計画の方向性 P18～20

(1) 目標と2030年にめざす子どもの姿

板橋区ではこれまで子どもの読書活動を推進するため様々な取組を進めていますが、時代の変化が著しく、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。

しかし、子どもの読書活動は「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(子どもの読書活動の推進に関する法律 第2条)です。

また、読書は、物語の登場人物の喜びや悲しみに共感することや自分自身の考えを確かめたり、深めたりすることができます。この体験を通し、他者の気持ちを理解する力を養い、情緒を育てる重要な役割を果たします。

すべての子どもたちが読書習慣を身につけ、自主的に読書活動が行えるよう取組むことが重要です。日常生活の中で本がそばにあり、子どもが本を身近に感じられ、本の魅力を知り、自然と本を読むことができる環境をつくります。




本計画における目標とめざす姿は、以下のとおりです。

◆目標: 本にふれる、本を読む、本を好きになる子どもが増える。

◆めざす子どもの姿: すべての子どもたちが、読書習慣を身につけ、自主的に読書活動を行っている。

※SDGsの『誰一人取り残さない』の基本理念に基づき「すべての子どもたち」としています。

(2) 基本方針

基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3
 <p>子どもの視点に立った取組を実現し、読書の習慣化をめざす</p> <p>1-(1)読書への興味喚起 1-(2)自主性の育成 1-(3)価値ある知識に出会える環境の設定</p>	 <p>身近な人々の協力によって、子どもが自由に本とふれ合える環境をつくる</p> <p>2-(1)乳幼児期の読み聞かせの推進 2-(2)小中学校・幼稚園・保育所における読書環境の充実 2-(3)子どもと本をつなぐための地域での取組を推進</p>	 <p>多様な子どもたちに適した読書に関する制度・環境を整備する、(読書バリアフリー法の考え方を含む)</p> <p>3-(1)多様なニーズに対応した資料の充実と活用 3-(2)新しい技術を導入した読書環境の整備及び図書館の使い方を提供 3-(3)安心して学べる場の提供とデジタルリソースへのアクセスの確保</p>

(3) 読書活動を推進するために必要な視点

めざす姿を達成するために基本的な視点として以下の3点を重視し、基本方針を策定しました。

① すべての子どもに必要なサービスの提供

すべての子どもは、背景や能力に関わらず平等にサービスを受ける権利があります。様々な文化・背景を反映した蔵書の構築や異なる読書レベルに対応した資料の提供など、新しい技術の活用も取り入れながら、子どもの成長と学びを支援します。

② 子どもから子どもへのアプローチ

年上の子どもによる読み聞かせなど異年齢の交流や、おすすめ本の紹介といった同世代の交流で生まれる憧れや共感の体験により、子どもの読書への興味を引き出す支援をします。

③ 子どもがアクセスしやすい学校図書館

子どもが自然と本と関わることができ、いつでも自由に本にふれることができる環境を整備します。また、学校司書の配置時間を増やすことにより、児童・生徒が相談しやすい環境をつくり、子どもの読書活動を積極的に支援します。

(4) 指標

基本方針	指標	令和6年度実績値	令和12年度目標値
1 子どもの視点に立った取組を実施し、読書の習慣化をめざす	1 年代・特色に合わせた展示・イベントの実施回数	—	令和6年度より増加
	2 イベントの満足度	—	80%以上
	3 子ども司書活動の実施回数	15回	令和6年度より増加
	4 本が好き・どちらかといえば好きと回答した児童・生徒の割合	小学生 87.2% 中学生 71.4%	90%以上 80%以上
2 身近な人々の協力によって、子どもが自由に本とふれ合える環境をつくる	5 読書率(1か月間に本を読んだ児童・生徒の割合)	小学生 89.8% 中学生 85.9%	90%以上 90%以上
	6 「ファーストスマイルブックfromいたばし」(仮名称)の配付率	65.4%	90%
	7 1人あたりの学校図書館の貸出冊数	小学生 41.6冊 中学生 4.0冊	令和6年度より増加 令和6年度より増加
	8 地域資源との連携事業数	—	令和6年度より増加
3 多様な子どもたちに適した読書に関する制度・環境を整備する	9 障がいや多言語に配慮した資料の提供	—	令和6年度より増加
	10 一人一台端末を活用した電子図書館サービスの閲覧数	小学生 217,652回 中学生 10,726回	令和6年度より増加 令和6年度より増加
	11 区立図書館から学校図書館への団体貸出冊数	小学校 17,619冊	令和6年度より増加
		中学校 332冊 その他 —	令和6年度より増加 令和6年度より増加

4 具体的な取組 P22～37

本計画では取組の分類を以下のアイコンで示しています。



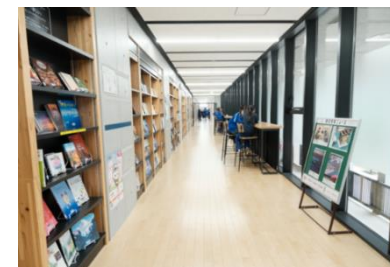
本計画の重要取組



「絵本のまち板橋」に関連した取組



その他の取組



オープンな学校図書館